

シブヤ食品グループ 私たちも SDGs に貢献しています

シブヤ食品グループ SDGs 取り組み指針



シブヤ食品グループは、「食の限らない未来に挑戦し、安全で安心な食事を提供します」という企業理念のもと、子供から高齢者まで、よい食事を提供し、地域の皆様に健康になっていただくことを最大のミッションとして事業を展開してまいりました。

核家族化や共働きなど社会構造の変化、不規則な食事・偏食などが危惧される昨今、ますますそのミッションの重要性を認識しています。また一方で、フードロスやエネルギー問題など食品生産や流通の過程における問題も危惧されています。

そうした中、シブヤ食品グループでは持続可能な社会の実現というSDGsの考えに賛同し、「地域社会の健康」という視点をもってSDGsに取り組んでまいります。

健康と美しさを願い開発された「健美膳」



当社のお弁当企画室が煮物、炒め物、和え物などにたくさんの野菜を使った調理レシピを考案、お客様の健康を第一に管理栄養士グループがアイデアを出し合い、健康で美味しく満足出来て、そして安全安心で衛生的なよりよい食事を作っていくため、毎日取り組んでいます。日替わりのおかずに加え、十五穀米、鶏釜めしなどごはんも24種類の中からの日替わりです。カロリーは500kcal前後設定されており、毎日食べるからこそその健康を重視したお弁当です

次世代の健康を育む「食育」に取り組んでいます



子どもたちの健やかな成長には「食」がとても大切だと考えています。

当グループのようちえん給食の工場見学会や給食だよりの発行、農業体験など様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を学んでいただけるような活動を推進しています。

シブヤ食品グループ 古川精米センター



宮城県有数の米どころ大崎市古川は、江合川と鳴瀬川が広大で肥沃な「大崎耕土」を育み、江戸時代から名声を得た土地柄です。シブヤ食品では、その古川地区の提携農家さんからお米をご提供いただいております。そして、より美味しくお弁当を召し上がって頂くため、自社精米工場による品質管理と遠赤乾燥でお米を出荷しています。出荷されたお米は各工場へと届き、季節や気温など最適な炊飯環境で美味しいご飯を炊き上げます。こうした精米工場の稼働を通じて地域の農業の発展に貢献したいと考えています。

弁当廃棄ゼロへの挑戦



日本国内で1年間に発生した食品廃棄物の量は約2800万トン（2016年度）もあるそうです。このうち売れ残りや食べ残しなどのいわゆる「食品ロス」は年間で646万トン以上もあるそうです。これは地球規模の食糧問題、環境問題と深くかかわる社会的なテーマであり、経営的な観点も含めシブヤ食品も積極的に取り組まなければならないと考えています。データの蓄積や最新機器の導入、工場の生産体制、メニューの改善、お客様とのコミュニケーションなどあらゆる方法を考えて弁当廃棄の実質ゼロをテーマに挑戦を続けています

5S3 定・ムダ取り活動



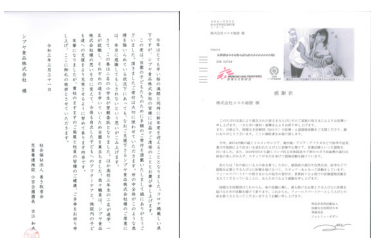
私たちは、毎日20,000食以上のお弁当をお届けしています。その過程で、食材やエネルギーをととてもたくさん使用しています。これからの持続的な会社の成長、環境改善のためにその過程で生じている無駄なエネルギーの消費や食材の使用、紙類をはじめとした資源の使用、お客様が必要としていないサービスのムダを発見し、改善活動を続けています。そして5S3定活動をあわせ、省エネルギー化、ペーパーレス化等に取り組んでいます。

地域清掃活動・地域イベントへの協賛



少しでも地域のお役に立ちたいという思いから、定期的な会社周辺の地域清掃活動を継続しています。また、花火大会への協賛など地域のお祭りなどへのご協力もさせていただいております。

寄付の継続（児童養護施設小百合園・国境なき医師団）



様々な理由で、家庭から離れて暮らす子どもたちが、心身ともに健やかに成長し、自立した社会人となるよう運営されている児童養護施設を応援すべく寄付を継続しています。東日本大震災の被災時に、食事としてお弁当を提供したことがきっかけでした。

また、紛争や災害・貧困などによって命の危機に直面している人びとに医療を届ける国境なき医師団の活動に対しても寄付を継続しています。